

会務 H26 年度活動計画

1. 運営体制

学会の諸活動は、委員会活動を中心に進め、研究会活動、講演会等の企画についても進めていく。本年度総会は6月に定例理事会と共に開催する。

2. 年次大会の開催

第24回日本MRS年次大会を12月10日(水)・12日(金)に横浜にて開催する。この度の年次大会ではE-MRSとのコラボレーションも企画しており、演題登録は7月初旬の開始を予定している。

開催シンポジウムリスト：

- A Frontier of Nano-Materials Based on Advanced Plasma Technologies
先端プラズマ技術が拓くナノマテリアルズフロンティア (国際シンポジウム)
- B Recent Progress in Material Chemistry for Photo-Induced Water Splitting
光水分解用材料開発の新展開
- C eco product session
エコものづくりセッション
- D Research frontiers in fullerenes and related nanocarbons
フラーレンおよび関連ナノカーボン研究の最先端
- E Smart/Intelligent Materials and Devices
スマート・インテリジェント材料・デバイス
- F Frontier of Smart-interface
先導的スマートインターフェースの確立
- G Nano-biotechnologies on Interfaces
界面におけるナノバイオテクノロジー(国際シンポジウム)
- H Advanced Technologies for Reconstructed and Regenerated Bone, Cartilage and Osteochondral Tissues Based on Bionic Design
生体関節を規範とする骨軟骨組織の再建・再生のための先進技術
- I Materials Frontier
マテリアルズ・フロンティア

3. 内外の関連諸機関との連絡・協力

- ア 先進材料に関する国内各学会・諸団体との連絡および協力を行う。
- イ IUMRS および IUMRS メンバーの各 MRS その他海外の先進材料に関する学会・諸団体に積極的に参加し、協力を行う。

4. 会誌等の刊行、広報

- ア 伊熊理事を委員長とする編集委員会及び出版事務局より、学術論文誌 「Transactions of the Materials Research Society of Japan」を年4回刊行する。
- イ 中川理事を委員長とするニュース編集委員会により、「日本MRSニュース」(Vol.26 No.1-No.4)を発行する。
- ウ 有沢理事を委員長とする広報委員会により、「日本MRSホームページ」(<http://www.mrs-j.org/>)を更新し、その運営・維持管理を中心として広報活動を行う。

5. IUMRS-ICA2014 の運営

8月24日・30日に福岡大学にて IUMRS-ICA2014 を開催し、その事務局を日本MRS事務局が担う。演題は世界37か国より1972件が集まり、2000名の参加者を見込んでいる。

一般社団法人 日本 MRS

平成 26 年度役員名簿

会 長：鈴木 淳史 横浜国立大学 大学院環境情報研究院 人工環境と情報部門 教授

副 会 長：伊熊 泰郎 神奈川工科大学 工学部 応用化学科 教授

東 雄一 (株) 本田技術研究所 四輪 R&D センター第 6 技術開発室上席研究員

森 利之 (独) 物質・材料研究機構

電池材料ユニット・燃料電池材料グループ グループリーダー

理事： 有沢 俊一 (独) 物質・材料研究機構 環境・エネルギー材料部門

超伝導物性ユニット エレクトロニクスグループ 主幹研究員

岡部 敏弘 近畿大学 分子工学研究所 客員教授

公益財団法人 21 あおもり産業総合支援センター マネジャー

小関 敏彦 東京大学 副学長 / 大学院工学系研究科 マテリアル工学専攻 教授

酒井 均 日本ガイシ(株) 理事 / 研究開発本部 材料技術センター センター長

節原 裕一 大阪大学 接合科学研究所 加工システム研究部門

エネルギー変換機構学分野 教授

高梨 弘毅 東北大学 金属材料研究所 所長 / 磁性材料学研究部門 教授

高原 淳 九州大学 先導物質化学研究所分子集積化学部門

複合分子システム分野 教授

鶴見 敬章 東京工業大学 大学院理工学研究科

材料工学専攻 無機機能材料講座教授

出口 雄吉 東レ(株) 常務取締役 研究本部長

中川 茂樹 東京工業大学 電子物理工学専攻 教授

林 司 日新電機(株) 研究開発本部物性評価センター センター長

原 一広 九州大学 大学院工学研究院 エネルギー量子工学部門 教授

九州大学 工学研究院附属循環型社会システム工学研究センター教授

九州大学シンクロトロン光利用研究センター教授

九州大学バイオメカニクス研究センター教授

松本 睦良 東京理科大学 基礎工学部 材料工学科 教授

監事： 齋藤 永宏 名古屋大学 工学研究科 教授・総長補佐

山本 寛 日本大学 理工学部 電子工学科 教授

顧問： 梶山 千里 公立大学法人福岡女子大学 理事長・学長

岸 輝雄 東京大学 先端科学技術研究センター 名誉教授

岸本 直樹 (独) 物質・材料研究機構 管理部 監事

高井 治 関東学院大学 材料・表面工学研究所 教授、名古屋大学 名誉教授

増本 健 (財) 電磁材料研究所 理事長

山本 良一 国際グリーン購入ネットワーク 名誉会長

吉村 昌弘 国立成功大学 招聘講座教授、東京工業大学 名誉教授

名誉顧問：堂山 昌男 東京大学 名誉教授、帝京科学大学 名誉教授

宗宮 重行 東京工業大学 名誉教授、帝京科学大学 名誉教授

長倉 三郎 武蔵野地域自由大学 学長、日本学士院 前院長 (23 代)

(敬称略・五十音順)

日本 MRS ニュース委員会 H26 年度活動計画

日本 MRS ニュース編集委員会
委員長 中川茂樹

1. 日本 MRS ニュース編集体制(編集委員会)

委員長: 中川茂樹(東工大)

委員: Manuel Brito(産総研)、伊藤 浩(東京高専)、岩田展幸(日大理工)、
小椋理子(ソニー湘北短期大学)、小林知洋(理研)、川又由雄(芝浦メカトロニクス(株))、
寺田教男(鹿児島大)、富田雅人(コーニング(株))、松下伸広(東工大)

顧問: 山本 寛(日本大学理工学部)、大山昌憲(サーフクリーン)、
岸本直樹((独)物質・材料研究機構)

編集: 清水正秀(東京 CTB)

出版: 株式会社内田老鶴園 / 印刷: 三美印刷株式会社 / 配送: JP コーポレーション

2. 2014 年度 発行予定

4 回の発行を予定(800 部/回)

編集委員会 H26 年度活動計画

編集委員会
委員長 伊熊 泰郎

平成 26 年度も「ScholarOne の TMRSJ オンライン投稿査読システム」を用いて投稿・査読された論文を主体として掲載する。編集委員会の課題は、TMRSJ への投稿数を増やすことと、impact factor 獲得に向けて TMRSJ に掲載された論文の引用数を増やすこと、この 2 点が重要課題である。この 2 点を達成するには TMRSJ の知名度を高めること、年次大会における発表者に積極的に投稿を促すことが求められる。計画は:

- (1) Trans. Mat. Res. Soc. Japan, Vol. 39, No. 1, 2, 3, 4 を発行する。
- (2) Review paper は引用され、impact factor に貢献する可能性が高いことから、2013 年の年次大会から Invited speaker の方が review paper を書いた場合、投稿料を無料とし、Review paper を増やす。さらに、2013 年年次大会の奨励賞受賞者には投稿を促がし、投稿料を安くする。
- (3) IUMRS-ICA 2014 の発表者に TMRSJ への投稿を促がす。
- (4) 2014 年 3 月、TMRSJ の発行担当を英徳社から、JP コーポレーションに移行したが、これがスムーズに運営できるようにする。
- (5) Trans. Mat. Res. Soc. Japan の J-Stage への掲載を軌道にのせる。

広報・情報委員会 H26 年度活動計画

広報・情報委員会
委員長 有沢 俊一

26 年度は、J-stage が一段落したことから、上記(4)は編集委員会連携とします。また、会員管理が杏林舎への委託から事務局での処理となることから、関連システムの構築が入ります。

26 年度は以下の予定です。

- (1) 日本 MRS 公式ホームページ維持管理。コンテンツ作成・管理。
- (2) 日本 MRS 年次大会 (2013) システムの小規模な維持管理。
- (3) IUMRS-ICA2014 演題登録システム、若手賞応募システム、管理システム維持更新。
- (4) 編集委員会連携
- (5) 会員募集等のチラシ維持更新
- (6) 他学協会の協賛依頼審査
- (7) 会員管理システム構築
- (8) 年次大会・ IUMRS 関連行事の会員への伝達 (メール)
- (9) 企業対応

IUMRS 対応委員会 H26 年度活動計画

IUMRS 対応委員会
森 利之

8 日 EU 会議 (Cesar park hotel) 出席者：高井会長、鈴木会長、森

9 日総会(Nangang Exhibition hall) 出席者：高井会長、鈴木会長、森、室井さん、大竹さん

1)IUMRS-ICEM 2014 (June 10-14, 2014 in Taipei, Taiwan.) へ参加すると共に、IUMRS 総会(9th June) と ICEM 会期中の ICA 対応会議に参加した。

IUMRS 総会では、若手が主体的に運営を行う 2016 年の ICYRAM の開催地を、インドと韓国のどちらにするかに関し、双方からのプレゼンが行われた後に、投票を行い、インドにおける開催が決まった。

国際会議関係では、そのほか、今年開催予定の中国 MRS 主催の ICYRAM に関する開催計画案が報告された。さらに、国際会議関係としては、4 年前に、国際会議の開催候補地を決めることが、会議ガイドラインとして初めて明確化され、2018 年開催予定の 16 回 ICEM の候補地の選定を、3 ヶ月程度をめどに決めることが確認された。

運営関係では、E-MRS のハーバーマイヤー氏から、MRS (米国) がぬけたあとの、現在の各国 MRS からの要望を反映した効率的な運営のありかたとして、アメリカ、アジア、ヨーロッパに、それぞれハブとなるオフィス (レジョナル・オフィス) をおく、各地域における要望を、適格かつすみやかに、本部に送るとともに、各地域の各国 MRS に知らせる体制をとることが提案され、長い議論のすえ、継続検討となった。(総事務局長のチャン教授が難色を示したことが、継続検討の大きな理由と思われる)

情報発信関係では、C-MRS が運営する Progress in Natural Science, Materials International に、各国 MRS が編集委員会メンバーをだしていることから、IUMRS の機関誌としての位置づけになっているが (暗黙のうちに)、その発行状況に関する説明がなされた。C-MRS の希望とは異なり、被引用件数などが伸び悩んでいるとのことで、年に 1 回は、編集委員会に名前を連ねている各国 MRS 関係者も、投稿してほしい旨の依頼があった。

受賞関係では、Singapore MRS が若手を中心した AWARD を設ける旨の報告を行い、それにつづき、Somiya Award (国際共同研究チームを表彰) の運営計画に関する説明を求められた。

昨年提案した内容に加え、応募時に、応募者に対し、あらかじめ、受賞した場合には、代表者が MRS-J が運営する Transactions に受賞記念レビューを必ず投稿することと、受賞が確定した場合は、かならず、メンバーが表彰式に出席し、代表者は記念講演を行うことに同意する同意書を作成し、これに同意することを応募の条件とすることが求められた。

昨年は、MRS-Taiwan が主催する 14 回 ICEM2014 の場で、Somiya 賞の受賞式を行う予定であったが、募集を行うタイミングを逸したため、次回の 14 回 ICAM (Jeju, MRS-K 主催) の場で、開催することが承認された。ちなみに、その次は、15 回 ICAM(Kyoto, MRS-J) の場での開催になる予定。

総会の開催中に、MRS-Taiwan の会長から候補を探したい旨の問い合わせがあったが、事務局長からは、過去の受賞代表者に、候補者の推薦を依頼し、優れたチームが受賞できるよう、配慮するよう、指示があった。

総会では、予算の報告もなされ、C-MRS が主催した第 13 回 ICAM からのドネーションが、昨年の主催者側からの予定の半分となっていることに関するクレームが、MRS-K からあったが、最終的に昨年度予定した金額のドネーションが行われることで、C-MRS からの確認が取れた。ドネーション関係では、今回の 14 回 ICEM の開催後の MRS-T からのドネーションや、ICA2014 (福岡) 開催後のドネーションも、しっかりなされるよう、要望がなされた。

次回の総会は、14 回 ICAM(Jeju, 韓国)で行われることが承認された。

そのほか、12 日の昼に開催されたアジア地域の MRS メンバーによる昼食会では、18 回 IUMRS ICA (MRS-T 開催) の予定であった部分を、MRS-オーストラリアが代わりに開催するが提案され、その方向で調整が行われることが承認された。開催場所は未定であるが、森から William 会長に、パースまたはその近郊のフリーマントルで開催してほしいと、繰り返しお願いをした。(高井先生からも、フリーマントル開催を依頼していただいた)

2)"Joint event" of E-MRS & MRS-J

E-MRS会長のDr. Rodrigo Martinsから開催を打診され、その後次期会長のDr. Thomas K. Lippertと検討を続けてきた。現時点での合意事項は下記の通り。

- ・ E-MRS Spring meeting 2015 でジョイントシンポジウムを実施する。

- E-MRSがUS-MRSと実施しているBilateral Meeting “Energy”のようにテーマ設定。
- 複数のトピックスでシンポジウムを開催。
- 2014年の年次大会でのキックオフを提案中。

上記の件に関しては、特に進展はなかった。

3) IUMRS ICA でのアジア地域における各国 MRS の打ち合わせ開催予定
会議開催の前の日曜にあたる 8 月 24 日の予定。ただ、MRS-K の LEE 教授は 26 日でないと出席
できないと困っていたことから日程の見直しをする必要があると思われる。(翌年の 14 回 ICAM
に関する何らかの打ち合わせも考えられることから)。

表彰委員会 H26 年度活動計画

表彰委員会
委員長 節原 裕一

奨励賞実施要綱

若手奨励賞について

MRS-J 奨励賞の選考要綱

1. 選考委員会 委員長＝節原裕一（大阪大学）
2. 選考委員の推薦依頼
 - 1) 各シンポジウムオーガナイザーへ当該分野の選考委員の推薦を依頼する。
 - 2) 各シンポジウム毎に 3 名以上、推薦していただく。委員の数は、ポスター講演の数、専門性を考慮し、各シンポジウムに委任する。ただし、60 分あたり、1 人の委員で評価できる講演数は 6 件（120 分で 12 件）程度が限度であることに留意する。個々の選考委員がどの講演を評価するかの割り振りは各シンポジウム毎に決める選考委員主査に委任する。なお、委員および主査を主オーガナイザー並びに副オーガナイザーが兼ねることは妨げない。
 - 3) 各オーガナイザーは、あらかじめ各委員あてに評価フォーム（講演番号・名前入）、選考規程、細則、当該講演の要旨を送付する。
3. 講演会当日の選考スケジュール（口頭講演、ポスターを含む）
 - 1) 各シンポジウムは事前に、選考委員主査と合議の上、各委員に講演番号と名前が記入済みの評価フォームを送付しておく。
評価フォームはあらかじめ事務局より各オーガナイザーへファイル送付する。
 - 2) 各選考委員は規定ならびに細則に従って、シンポジウム毎の発表時間内に評価を行い、シンポジウム終了後は速やかにそのフォームを選考委員選考委員会委員長に提出する。
 - 3) 選考委員主査は、シンポジウム終了後所定時間内に、委員会・副委員長に集計フォームにより受賞候補者リストを提出する。
 - 4) 副委員長は、全シンポジウムの結果をとりまとめ、担当（節原委員長）に報告する。
 - 5) 委員長は報告結果をもとに、受賞者を最終的に判断する。
4. 選考結果の発表と表彰
 - 1) 受賞者の名前・所属を「日本MRSニュース」に公示する。
 - 2) 表彰方法：賞状等にタイトルと名前を記入の上、選考規定とともに本人に郵送する。

奨励賞規定

1. 本規定は日本MRS（以下、本会）が若手研究者に対して行う表彰に関して定めたものである。
2. 本表彰は、本会が定期的開催する年次大会で優秀な発表（口頭発表あるいはポスター発表）をした若手研究者個人に「奨励賞」を授与し、その功績を称えることを目的とする。
3. 表彰対象は本会が定期的開催する年次大会で口頭発表あるいはポスター発表した若手研究者であり、以下の全ての要件を満たす者とする。
 - (1) 論文の登録発表者、(2) 実際に発表した者、(3) 講演申込時に奨励賞への申込をした者
4. 若手研究者については以下のように区分し、区分毎に表彰者を決定する。ただし、学生に関しては年齢を問わない。
 - (1) 学部学生、(2) 大学院修士課程（博士前期課程）の学生、(3) 大学院博士課程（博士後期課程）の学生、(4) 発表年の 12 月 31 日の時点で 40 歳未満の一般の研究者
5. 奨励賞選考委員会は、各シンポジウム毎に表彰候補者の数の 10% 程度を授賞候補者として選び、理事会に推薦する。
6. 理事会は奨励賞選考委員会の結果を審議し、受賞者を決定する。
7. 受賞者には会長名の賞状を授与し、受賞者名を「日本MRSニュース」に公示する。
8. 本規定は理事会の承認を経て改定することができる。
9. 本賞の英文名称は次の通りとする。

Award for Encouragement of Research in Materials Science;
The Materials Research Society of Japan

奨励賞選考細則

1. 奨励賞選考委員会

- 1) 委員会は本会の年次大会を構成する各シンポジウムのオーガナイザーから推薦された各3名以上の委員と、理事会から推薦された委員長ならびに副委員長各1名から構成される。
- 2) 選考委員の推薦方法は各シンポジウムオーガナイザーに委任する。ただし、選考委員は当該分野に見識のある研究者とする。推薦リストをもとに選考委員会では委員を委嘱する。委嘱された委員は、当該シンポジウムで発表された表彰候補発表（口頭発表あるいはポスター発表）について評価を行い、委員会に報告する。
- 3) 委員長と副委員長は評価結果をとりまとめ、理事会に報告する。

2. 受賞者の数

奨励賞選考委員会は、各シンポジウム毎に表彰候補者の数の10%程度を受賞者候補者として選び、理事会に推薦する。

3. 評価項目：以下の5つの項目について評価する

- 1) 理解度：内容を十分に理解しているか？質疑応答が適切になされているか？
- 2) 発表あるいは説明の態度：聴講者に内容を的確に説明しているか？
- 3) 発表あるいはポスターの構成・表現：見やすいか？よく整理されているか？
- 4) 研究内容：十分に考察されているか？
- 5) 総合：総合的に見て、優秀な発表であるか？

上記の項目について、

委員毎に4段階で絶対評価(4:非常に優れる、3:優れる、2:普通、1:努力を要する)する。

4. 選考手順

- 1) 各シンポジウム毎に選考委員の中から主査を選出する。
- 2) 専門性を配慮し、1つの表彰対象論文に対し、3名の選考委員を選定する。
- 3) 選考委員が共著の論文は、当該委員は評価できない。その場合、専門性を考慮し、やむをえず代替の選考委員が充当できないとき、他2名の選考委員の評価平均点を評価点として加算する。
- 4) 3名の委員の評点の合計点等をもとに、各シンポジウム毎に受賞候補者の推薦順位を決定し、主査はWEBシステムを用いて選考委員会委員長に報告する。

5. 理事会での審議

理事会は選考委員会に審議を委任することができる。

6. 受賞者の掲示、表彰などについては原則として以下の通りとする。

- 1) 受賞者を年次大会終了後1週間以内に決定し、本人に通知すると同時に「日本MR Sニュース」などに公示する。
- 2) 賞の授与は郵送により行う。ただし、この項は本会の学術講演会の運営日程に従い、予告なく変更することができる。

7. 本細則は理事会の承認を経て改定することができる。

Young Scientist Awards in IUMRS-ICA2014

About the award

Young Scientist Awards in IUMRS-ICA2014, consisting of gold, silver and bronze awards, are intended to honor and encourage outstanding young scientists, who have contributed to IUMRS-ICA2014 as presenters in the Symposia and/or the Forums of IUMRS-ICA2014, and whose academic achievements and current research works demonstrate a high level of excellence and distinction. The IUMRS-ICA2014 committees seek to recognize young scientists with outstanding and exceptional abilities showing great potentials toward significant future progress in a variety of research fields, which are widely covered in IUMRS-ICA2014.

Award Package

Gold award: A certificate of the Award and 300 USD cash prize

Silver award: A certificate of the Award

Bronze award: A certificate of the Award

Approximately 2 gold-award winners, 3 silver-award winners and 5 bronze-award winners may be selected in this conference.

Rules and Eligibility

1. The nominee shall not have reached his or her 40th birthday on or before August 24th, 2014.
2. The nominee must submit the documents [curriculum vitae (CV) including the date of birth (2-pages maximum), extended abstract in accordance with the template for the award nomination (4-pages maximum) and list of recent publications (2-pages maximum)], which are to be announced on the web page of IUMRS-ICA2014. The deadline for the submission of the documents is February 5th, 2014 (the same date for the deadline of the abstract submission in the symposia and/or in the forums of IUMRS-ICA2014).
3. At the timing of the submission of the documents for the award, the nominee must have completed abstract submission as a presenter in the symposia and/or in the forums of IUMRS-ICA2014. The title of the extended abstract for the award nomination should not be the same as the title(s) of the abstract(s) submitted for presentation(s) in the symposia and/or in the forums.
4. The documents submitted by the nominees are to be reviewed by referees. The referees will select eligible candidates as finalists, who shall be asked to participate in the "Finalist Session for Young Scientist Awards", which is to be held on August 26th, 2014, and deliver their presentations under the title of the extended abstract submitted as one of the documents for the award nomination. It is noted that the finalist must have completed the registration process of IUMRS-ICA2014 before his or her presentation in the Finalist Session.
5. The award winners will be selected from the finalists based on both the pre-evaluation of the documents submitted by the nominees and the evaluation of the presentations in the "Finalist Session for Young Scientist Awards".
6. The award winners will be announced in the award ceremony to be held during the banquet on August 27th, 2014.
7. After the award ceremony, a group photo of the award winners will be taken. The photographs will be uploaded onto the homepage of the conference.
8. The above rules and procedures may be subject to be modified by the organizing committee of IUMRS-ICA2014.

Award for Encouragement of Research in IUMRS-ICA2014

About the award

Award for Encouragement of Research in IUMRS-ICA2014 is intended to honor young researchers who have delivered excellent presentations (oral or poster presentation) in IUMRS-ICA2014 for encouragement of future progress of the award winners.

Award Package

Each of the award winners will receive a certificate of the award.

Rules and Eligibility

1. The nominee must have completed the registration as the presenter and have actually delivered the oral or the poster presentation in IUMRS-ICA2014.
2. The nominees must meet either of the eligibility requirements in the following two categories;
 - (1) Students in undergraduate, master, or PhD course. (There is no age limitation on student nominees.)
 - (2) Researchers (other than students) who shall not have reached his or her 40th birthday on or before August 24th, 2014.
3. Those who have won the young scientist awards (gold, silver or bronze award) in IUMRS-ICA2014 are not eligible to win this award.
4. Upon evaluations of the nominees' presentations by the referees, the award candidates are to be selected within the number, which is to be around 10% of the total number of nominees in the corresponding symposium, and the award candidates are to be recommended to the organizing committee of IUMRS-ICA2014.
5. The organizing committee of IUMRS-ICA2014 deliberates the recommendation of the candidates and decides the award winners.
6. The above rules and procedures may be subject to be modified by the organizing committee of IUMRS-ICA2014.

Award for Encouragement of Research in IUMRS-ICA2014 について

本賞の選考においては、日本 MRS 年次大会における奨励賞の実施要項・規程・選考細則を準用して実施する。（平成 25 年度第 4 回理事会にて承認）

従来との変更点は、以下の通りである。

- ・ 講演申込時に本賞への申込をした者のみを表彰対象者とする。
- ・ 本賞の選考手順については、「3 名の委員の評点の合計点等をもとに、各シンポジウム毎に受賞候補者の推薦順位を決定し、主査は WEB システムを用いて選考委員会委員長に報告する。」とする。

「国際材料研究学会連合ーアジア国際会議 2014 (IUMRS-ICA 2014)」

開催趣意書

1. 会議の名称

和文名： 国際材料研究学会連合ーアジア国際会議 2014
英文名： International Union of Materials Research Societies
– International Conference in Asia 2014
略 称： IUMRS-ICA 2014

2. 主催機関等の名称

(1) 主催：日本 MRS (The Materials Research Society of Japan (MRS-J))

<組織委員会>

委員長

鈴木淳史 横浜国立大学 教授(日本 MRS 会長)

事務局長

原 一広 九州大学 教授

運営事務局

日本 MRS 事務局

委員

東 雄一 本田技術研究所 上席研究員
有沢俊一 物質・材料研究機構 主幹研究員
伊熊泰郎 神奈川工科大学 教授
岡部敏弘 青森県産業技術センター
理事 兼 工業総合研究所所長
加藤隆史 東京大学 教授
小関敏彦 東京大学 教授
齋藤永宏 名古屋大学 教授
酒井 均 日本ガイシ株式会社 材料技術
センター センター長
篠原嘉一 物質・材料研究機構 グループリーダー
節原裕一 大阪大学 教授
高梨弘毅 東北大学 教授
高原 淳 九州大学 教授
鶴見敬章 東京工業大学 教授
出口雄吉 東レ株式会社 常務
中川茂樹 東京工業大学 教授
林 司 日新電機株式会社 研究開発
本部物性評価センター センター長
松本睦良 東京理科大学 教授
森 利之 物質・材料研究機構 グループリーダー
山本 寛 日本大学 教授

(50 音順)

[開催地実行委員会]

平松信康 福岡大学 教授 (委員長)

香野 淳 福岡大学 教授 (副委員長)

※組織委員会のもとに実行委員会、
更はその下部に作業別委員会が設置される。

<諮問委員会>

宗宮重行 東京工業大学 名誉教授、
帝京科学大学 名誉教授

堂山昌男 東京大学 名誉教授、
帝京科学大学 名誉教授

増本 健 電気磁気材料研究所 理事長
山本良一 東京都市大学 教授

梶山千里 公立大学法人福岡女子大学
理事長・学長

吉村昌弘 国立成功大学材料科学工学科
招聘講座教授、東京工業大学名誉教授

岸 輝雄 東京大学 名誉教授

山本 寛 日本大学 教授

岸本直樹 物質・材料研究機構 監事

<国際諮問委員会> (暫定)

高井 治 関東学院大学 教授 (IUMRS 会長)

Boyun Huang (C-MRS)

G. Sundararajan (MRS-I)

B. V. R Chowdari (MRS-S)

Tsung-Shune Chin (MRS-T)

Mona Marei (Africa-MRS)

Iris Alvarez (MRS-AR)

J. S. Williams (A-MRS)

Fernando Lázaro Freire Jr. (B-MRS)

Rodrigo Martins (E-MRS)

Sergio Javier Mejía Rosales (MRS-Mexico)

Nikolai Z. Lyakhov (MRS-R)

Byung Tae Ahn (MRS-K)

(2) 共催：福岡市

International Union of Materials Research Societies (IUMRS)
Chinese Materials Research Society (C-MRS)
Materials Research Society of India (MRS-I)
Materials Research Society of Korea (MRS-K)
Materials Research Society of Singapore (MRS-S)
Materials Research Society of Taiwan (MRS-T)

(3) 特別協力：応用物理学会九州支部

(4) 協賛：各種学協会

(5) 後援：文部科学省、福岡県

3. 開催期間 2014年8月24日(日)～8月30日(土)

4. 開催場所 福岡大学 七隈キャンパス (〒814-0180 福岡市城南区七隈八丁目 19-1)

5. 使用言語 英語

6. 開催の意義と目的

アジアにおける近年の産業の進展は **Booming** と評される様に見張るものがあるが、その継続的な発展の為には材料分野の科学技術の進展が切望される。しかしアジアにおいては、ヨーロッパやアメリカの場合の様に産業を支える包括的な科学研究ソサエティが確立されているとは言いがたい状況にある。国際材料研究学会連合 (International Union of Materials Research Societies : 略称 IUMRS) ⁽ⁱ⁾では、1993年の第1回会議以来、この地域における材料関連科学・工学分野における研究交流や世界第3極の材料研究ソサエティ構築を目的として国際材料研究学会連合ーアジア国際会議 (International Union of Materials Research Societies-International Conference in Asia : 略称 IUMRS-ICA) を開催⁽ⁱⁱ⁾し科学技術振興に貢献して来ている所であるが、現今の急激な産業発展に伴い発生している環境問題に鑑み、環境関連技術も含めた包括的な研究討論を行う事を目的とした第15回会議を環境技術の世界的先進都市⁽ⁱⁱⁱ⁾として知られる福岡において2014年に開催 (IUMRS-ICA 2014) する。

日本はかつて、現在のアジアの他の国々の様に産業発展に伴う深刻な公害・環境問題を経験しており、中でも福岡地区は甚大な大気・水質汚染であった。しかし、関係機関の不断の努力により現在ではこの問題を解決し、福岡地区は公害・環境問題解決の先進都市として世界的にも著名な地区となっている⁽ⁱⁱⁱ⁾。従前よりの新機能材料開発技術に加え、資源採取から廃棄物に至る包括的な科学技術の研究討論を行う IUMRS-ICA2014 の開催地として福岡は最適であり、その成果はアジアにおける今後の材料開発に関する科学技術に大きな影響を与える事が確信される。

(i) 構成学会

African Materials Research Society	European Materials Research Society	Materials Research Society of Mexico
Materials Research Society of Argentina	Materials Research Society	Materials Research Society of Russia
Australian Materials Research Society	Materials Research Society of India	Materials Research Society of Singapore
Brazil Materials Research Society	Materials Research Society of Japan	Materials Research Society of Taiwan
Chinese Materials Research Society	Materials Research Society of Korea	

(ii) IUMRS-ICA 開催履歴

第1回 1993年 揚子江船上 (中国本土)	第9回 2008年 名古屋 (日本)
第2回 1994年 台北 (台湾)	第10回 2009年 シンガポール
第3回 1995年 ソウル (韓国)	第11回 2010年 青島 (中国本土)
第4回 1997年 幕張 (日本)	第12回 2011年 台北 (台湾)
第5回 1998年 バンガロール (インド)	第13回 2012年 釜山 (韓国)
第6回 2000年 香港	第14回 2013年 バンガロール (インド) [予定]
第7回 2004年 新竹 (台湾)	第15回 2014年 福岡 (日本) [予定]
第8回 2006年 チェジュ (韓国)	

(iii) 環境技術に関する福岡地区の国際的評価

福岡市、福岡大学

平成23年：「廃棄物最終処分場における準好気性埋立構造 (福岡方式) による環境改善技術」が温室効果ガス削減に寄与する埋立技術として認定 [国連]

北九州市

平成14年：地球サミット2002 持続可能な開発表彰

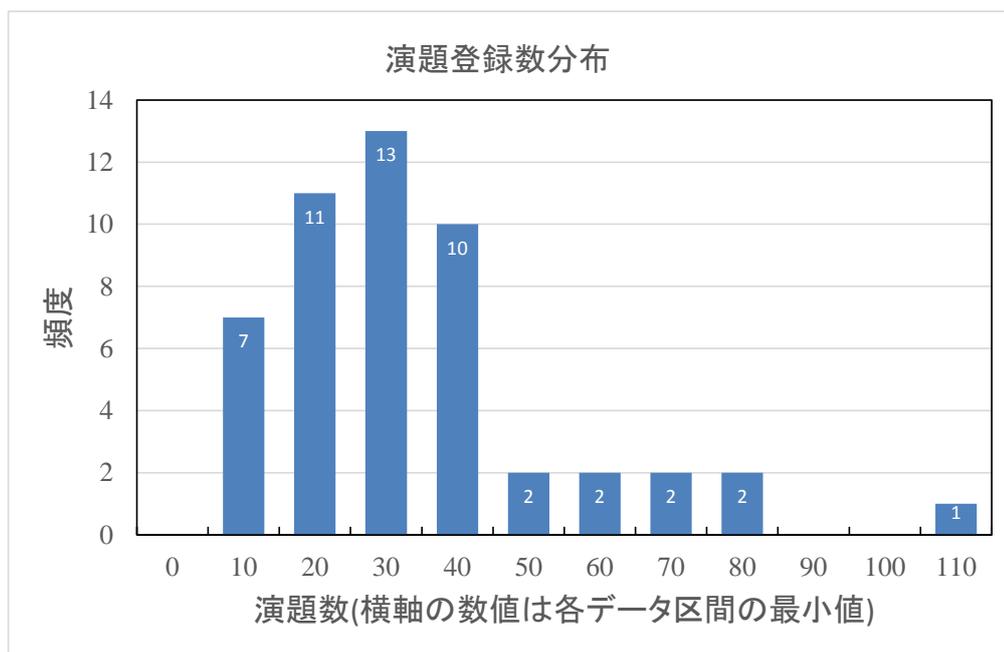
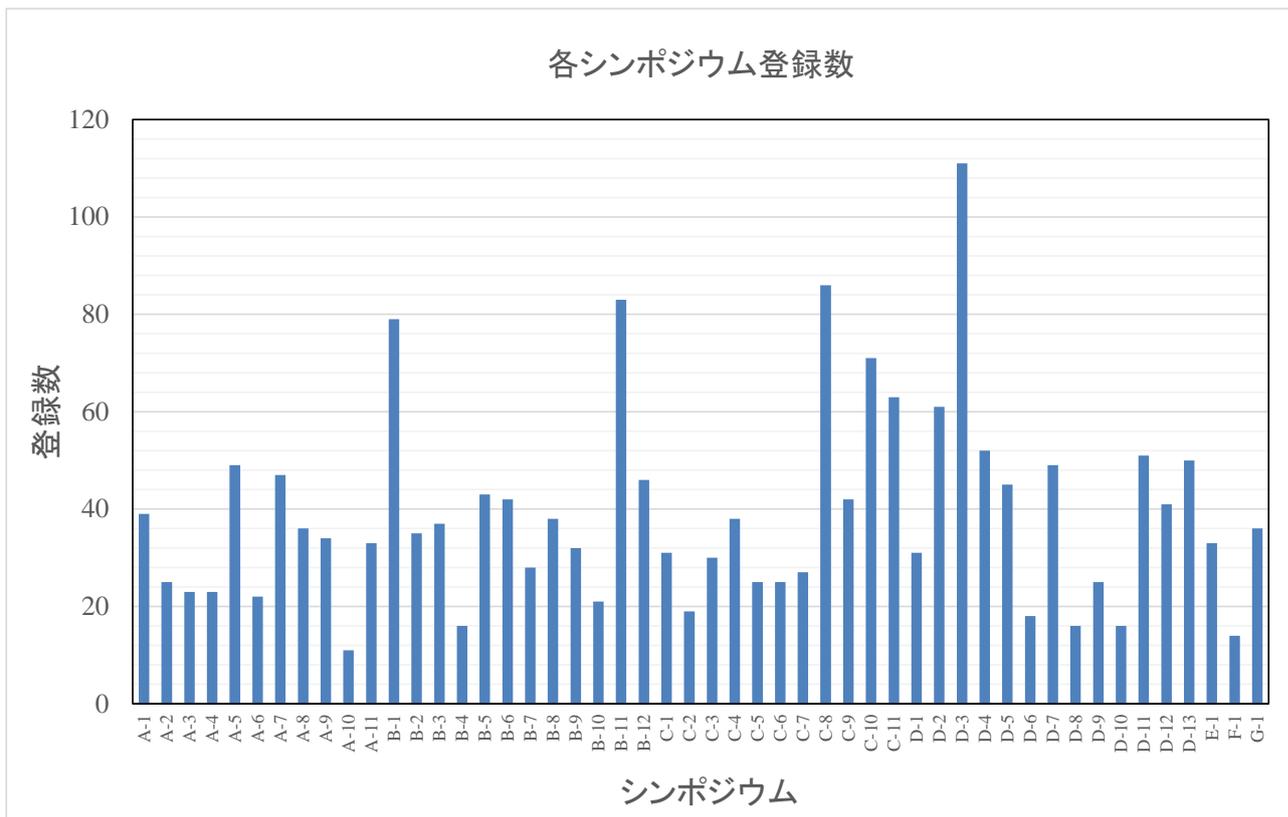
[持続可能な開発に関する世界首脳会議 (ヨハネスブルグ・サミット)]

平成12年：環境保全の取り組みが「クリーンな環境のための北九州イニシアティブ」として採択

[国連アジア太平洋経済社会委員会 (UNESCAP) 環境と開発に関する関係会議]

平成4年：国連地方自治体表彰 [国連環境開発会議(地球サミット)]

平成2年：「グローバル500」受賞 (日本の自治体として初めて) [国連環境計画]



演題登録数： 1970 件

Schedule at a glance

	Aug. 24 (Sun)	Aug. 25 (Mon)	Aug. 26 (Tue)	Aug. 27 (Wed)	Aug. 28 (Thu)	Aug. 29 (Fri)	Aug. 30 (Sat)	
9:00			Technical symposia 4		Technical symposia 6	Technical symposia 8	Seminar for the general public	
10:00		Opening ceremony				Technical symposia 12		
11:00		Plenary 1	Plenary 2		Technical symposia 7	Plenary 3		Technical symposia 13
12:00			Lunch	Lunch	Lunch	Lunch	Lunch	
13:00					Facility tour			Facility tour
14:00		Technical symposia 1	Technical symposia 5	S c i e n t i s t A w a r d A n n o u n c e m e n t Y o u r S y m p o s i u m		Technical symposia 9	Technical symposia 14	
15:00		Technical symposia 2	Poster session 2			Technical symposia 10	Technical symposia 15	
16:00		Technical symposia 3				Technical symposia 11	Farewell party	
17:00		Registration &						
18:00		Welcome Party	Poster session 1	Poster session 3	Banquet	Poster session 4		
19:00								
20:00								

Plenary Lectures

Date of lecture: 25 August, 11:20-12:00

“Hazy Skies – The Changing Nature of Particulate Pollution”

Richard C. Flagan

McCullum/Corcoran Professor of Chemical Engineering and Environmental Science and Engineering, California Institute of Technology Pasadena, California, USA

Date of lecture: 25 August, 10:40-11:20

“Inorganic Graphene Analogues and Related Materials”

C.N.R. Rao

International Centre for Materials Science and Jawaharlal Nehru Centre for Advanced Scientific Research Bangalore 560 064, India.

Date of lecture: 28 August, 11:10-11:50

“Research and Development of Ecomaterials in China”

Zuoren NIE

College of Materials Science and Engineering, Beijing University of Technology

Date of lecture: 26 August, 10:30-11:10

“Technology for Landfill Improvement and International Cooperation by Fukuoka Method”

Yasushi MATSUFUJI

Fukuoka University, Faculty of Engineering

Date of lecture: 26 August, 11:10-11:50

“E-waste Management in Japan and other Asia: Toward the Appropriate Management of Hazardous and Resource Potential”

Atsushi TERAZONO

National Institute for Environmental Studies

Date of lecture: 28 August, 10:30-11:10

“Feature and Future of Soft Processing(Green Processing) for Advanced Inorganic Materials”

Masahiro YOSHIMURA

Promotion Center for Global Materials Research, Dept of Mater.,Sci. and Eng., National Cheng Kung University, Tainan, Taiwan

Prof. Emeritus. Tokyo Institute of Technology